

「ホー ホケキョ ♪」

3月上旬のある早朝、自宅で山行の準備をしていると、爽やかな春の音が聞こえてきました。日本三鳴鳥の1つであるウグイスは、スズメ目ウグイス科ウグイス属の1種です。山梨県と福岡県の県鳥であるとともに、日本の多数の市町村などの自治体指定の鳥で身近な存在です。

さて、このさえずる鳴き声、音程が良いほど聞く我々の気分もスッキリして心地よいものですが、これは縄張り内を見張っているオスで「ホーホケキョ」が他の鳥に対する縄張り宣言であり、巣にエサを運ぶメスに対する「縄張り内に危険なし」の合図でもあるそうです。また、「ケキョケキョケキョ」が侵入した者や外敵への威嚇であるとされており、これを合図に、メスは自身の安全と、外敵に巣の位置を知られないようにするためにエサの運搬を中断して身をひそめます。まさに、生存を掛けた競争であります。

一方で80年前に日本からハワイに持ち込まれたウグイスは、競争のない環境にいと短期間で「ホーホピッ」など単純なさえずりに変化してしまうという研究成果を国立科学博物館の研究グループが発表しています。日本のウグイスは季節ごとに移動して、毎年繁殖地で縄張り争いをするのに対し、ハワイなど島では移動せずに、一年中同じ場所にとどまって生息していることから、競争が緩やかでさえずりが単純化すると推測しています。



イヌやネコと異なり、鳴き声だけではその感情が分かりにくい鳥類ですが、こうして調べてみることで、鳴き方でその行動の意味合いを知ることができて面白さを感じました。

鳥類の動きが活発になるこれからの春の季節がとても楽しみです。(Y)

<写真>Photo AC

<http://www.photo-ac.com/main/detail/379019?title=%E9%B6%AF>

<参考>

<http://www.kahaku.go.jp/procedure/press/pdf/52025.pdf> 国立科学博物館 H27.5.1プレリリース